

社会科における「言語能力」の整理

社会科における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報を適切に調べまとめる →調べたことを「ノート」に整理したり、単元終末のパフォーマンスとして「新聞」「パンフレット」「ポスター」作りに取り組んだりする ・考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立場や根拠を明確にして議論したりする →論題やテーマを設定して「議論」や「討論」を行う ・単元を通して考えてきたことを整理し、自分の考えを文章化する →単元終末のパフォーマンスとして「意見文」「提案文」に取り組む 			
第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けること。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや選択・判断したことを文章で記述したり図表などに表したことを使って説明したりして表現する力を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立場や根拠を明確にして議論したりする力を養うこと。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動を行ったり、議論や討論を行ったりする活動を通して考えてきたことを基に、自分の考えを整理し、意見文や提案文などの形式で文章化すること。 			

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①事実から疑問や気づきを出し、社会にみられる課題を見いだす。	①学習計画づくりを児童とともに行う	①事実から疑問や気づきを出し合い、社会にみられる課題を見いだす。その課題解決に向けて、調べるべき問いや単元を貫く問いを設定し、学習計画を立て見通しをもつ。
②情報を適切に調べまとめる。	②基礎的資料を基にノートにまとめる	②調べるべき問いを調査活動、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、ノートにまとめる。
③考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ、立場や根拠を明確にして議論したりする。	③議論や討論を行う	③社会に見られる課題の解決に向けて、よりよい発展を考えたり社会への関わり方を選択・判断したりする。それについて、議論を行う。
④単元を通して考えてきたことを整理し、自分の考えを文章化する。	④単元終末のパフォーマンスを行う	④単元終末のパフォーマンスとして「意見文」「提案文」などに取り組み、関係諸機関に提出する。

授業の実際と考察

第4学年「ふせごう交通事故や事件～ワーストレベルから抜け出そう～」の実践を通して

1 事実から疑問や気付きを出し、社会にみられる課題を見いだす力の育成

本単元では、佐賀県の人身事故発生件数が5年連続で全国ワースト1になっているという事実を取り上げ、「どうにかして交通事故を減らして安全な佐賀県にしていきたい」という気持ちをもたせ、そのためにどのような対策を講じればよいか考え、関係各所に提案させることとした。

1時目では、人身事故発生件数とは知らせずに「2012年9090件」「2013年9364件」と5年間のデータを提示した。件数がだんだん減っているが、全国1位の数字であることを提示した。児童は最初喜んでいて、ワースト記録であることを伝えると、落胆したり、驚いたりしていた。

その気持ちを基に、佐賀県の交通事故について疑問に思うことや気付きを出し合って作成したのが図1のイメージマップである。出された意見は「事故の原因」「事故の現状」「近年の現状」「他県等との比較」「減らすための対策」の5つに分類できた。さらに、分類したものをしながら、「何をどのように調べ、自分たちが考える対策を誰に提案するのか」という内容のパフォーマンス課題を作成することができた。



図1 本単元1時目の板書

2 情報を適切に調べまとめる力の育成

児童が自分たちの疑問に沿って情報を集めることができるように、「交通事故の現状(県警より)」「佐賀県の取り組み(県くらしの安全安心課より)」「自動車の安全装備(自動車会社より)」などの資料を配布し、それらの読み取りを個人や、小グループでおこなった。(図2)

関係各所へ提案するために、読み取ったことを基に「事実⇒原因⇒対策」という流れで各グループの提案を整理した。(図3) その際、「実現可能か」「どのくらいの効果があるか」「どのくらいの費用がかかるか」「新しい取り組みになっているか」という見方を大切にすることを確認した。

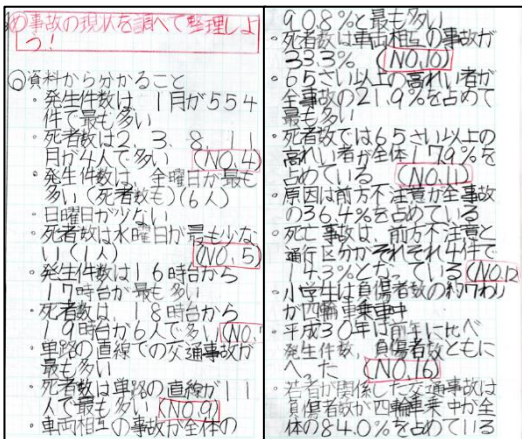


図2 資料の読み取り(児童ノート)

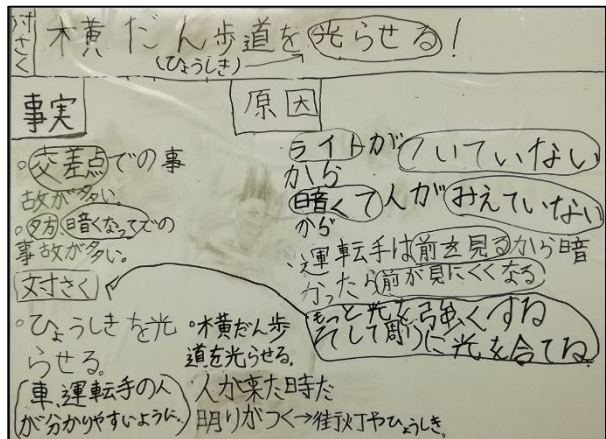


図3 県くらしの安全安心課への提案内容

- 3 考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ、立場や根拠を明確にして議論したりする力の育成

図4は県警交通企画課の方に自分達の考えた対策を提案している様子である。作成した資料だけでなく、自分達が問題点であると感じた場面の写真を用意し、それを根拠として電子黒板で示しながら提案内容について説明することができた。

発表グループ以外の児童は、提案内容について事前に質問や代案を考えて臨み、発表グループの提案内容がより効果的なものになるようにと多くの発言を行うことができた。(図5)



図4 県警の方への提案

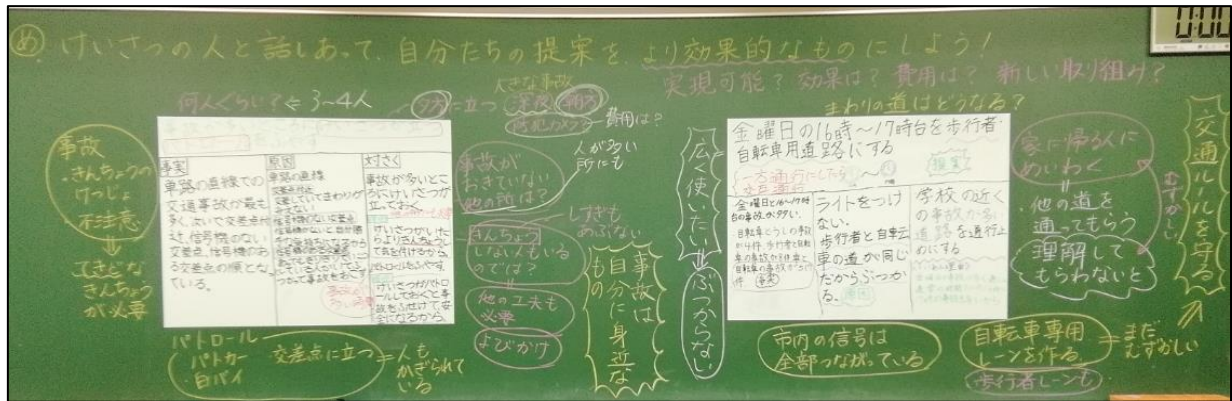


図5 県警交通企画課の方への提案を行った時の板書

- 4 単元を通して考えてきたことを整理し、自分の考えを文章化する力の育成

図6は、県庁の方への提案を行った後の児童のふり返りである。「費用と安全生の確保」のバランスを考えたり、説得力のある提案をするには、資料をしっかりと準備しておく必要があると感じたりするなど、他グループの

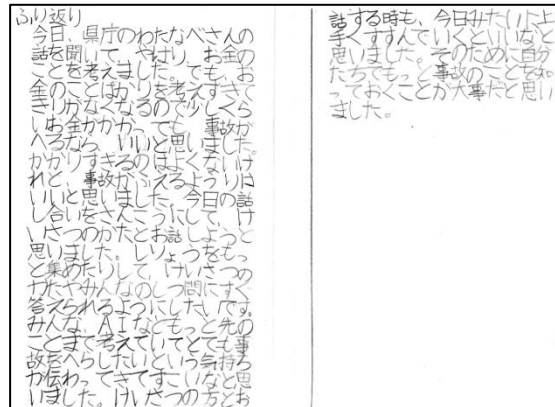
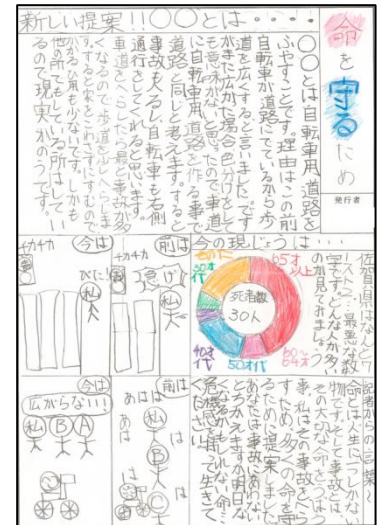


図6 児童のふり返り

提案を聞いて、次時の自分たちの提案に向けて参考にすべき点について整理できていることが読み取れる。

図7は、本単元の学習の最後に作成した「交通事故新聞」である。図7 児童の交通事故新聞
本単元では、ラーニングパートナーとして、県庁の方、県警本部の方、自動車ディーラーの方に教室に来ていただき、直接提案することができたので、意見文や提案文という形での学習のまとめではなく、新聞形式でのまとめとした。

作成する過程において、自分たちの提案に対して出された質問や代案等を取り入れて再検討した内容にするように指示した。児童は、資料を改めて見直したり、自分たちが課題であると考えた点について確認したりするなど、単元全体の学習をふり返りながら新聞作りに取り組んだ。また、自分たちの提案が多くの人に伝わるようにと、分かりやすく、説得力がある内容にしようと様々に工夫しながら作成することができていた。



実践の概要～第4学年「ふせごう交通事故や事件～ワーストレベルから抜け出そう～」における実践～

学習活動と児童の反応 ()	聴	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
1 本時のめあてをつかむ。 (5分)	斉	1 佐賀県警の方を紹介し、本時では制度面を中心に議論することを確認する。
佐賀県警の人と話し合っ、自分たちの提案をより効果的なものにしよう。		
<p>2 グループごとの提案について説明し、LPとの議論を通して提案内容を検討する。 (30分)</p> <p>①【取り締まりの強化】の提案と質疑応答</p> <p>・事故の約36%が前方不注意で、携帯を触るなどしている時に起きています。「パトカーを見るとドキッとすると親が言っていたので、見回りでたくさん走ってくれたら、運転手も集中して運転すると思います。</p> <p>・取り締まりの場所が同じ所が多いので、いろいろな場所で行えば、運転手も緊張して運転すると思います。</p> <p>②【高齢者への対応】の提案と質疑応答</p> <p>・事故全体の内、65歳以上の高齢者が起こしたものは約22%です。中でも車の運転中の事故が多くなっています。だから、65歳以上の人は毎年安全教室を受けるようにした方がいいと思います。</p> <p>・高齢者の人が免許を返納したら、バス・タクシー乗り放題チケットを渡すようにしたらいいと思います。</p> <p>③【通行規制の実施】の提案と質疑応答</p> <p>・交通事故は夕方の4～5時台が最も多く、次に8～9時台となっています。つまり、通勤通学の時間帯です。なので、中高生の自転車が安全に通れるように、その時間は学校近くの道路に車が入って来れないようにしたらいいと思います。</p>	斉	<p>2-(1) 理由を明らかにするために、「実現可能性」「効果」「費用」などの社会的事象の見方や考え方を働かせながら検討するよう促す。</p> <p>◆社会的事象の見方や考え方を働かせて考えているか。(ワークシートの記述、発言)【思考・判断・表現】</p> <p>A Bに加え、代案を示している。</p> <p>B 社会的事象の見方や考え方を働かせ、批判的に考えている。</p> <p>→どうすればより効果的な対策になるか代案を考えるよう促す。</p> <p>C 社会的事象の見方や考え方にふれていない。</p> <p>→ワークシートや、黒板に書かれている見方や考え方をもとに提案内容について考えるように促す。</p> <p>2-(2) 提案グループの児童とLPだけの議論にならないように、フロアの児童にも意見を求める。</p> <p>2-(3) 多角的に考えるために、車の運転手、自転車の中高生、お年寄り、小学生など複数の立場を意識して発言するよう促す。</p> <p>2-(4) 議論を通して提案内容をより効果的にするために、児童やLPの発言を板書したり、矢印でつないだりして、話し合った内容の可視化を図り、提案内容を見直す手掛かりとする。</p>
3 LPの話聞く。 (5分)	斉	3 児童の励みとなるように、学習活動への称賛と、交通安全に関する指導をしてもらう。
<p>4 本時のふり返りをする。 (5分)</p> <p>警察の人と話して、簡単にできると思っていたけど、実際に対策として行うことの難しさが分かりました。しかし、交通事故を減らすために、これからもいろいろなアイデアを出しあうことは大事だと思いました。</p>	個	<p>4-(1) 議論を通して感じたことについて見つめることができるように、議論前後の自分の考えの変化を中心にふり返りを書くよう促す。</p> <p>4-(2) 自他の感じ方の違いや共通点を知り、考えを深めるために、友達の発表を聞く時間を設け、共有を図る。</p>